

けいりんバケーションCUP 神奈川新聞社杯争奪戦

8/6(土) 7(日) 8(月) FI 競輪。川崎 川崎スポーツ



レース展望!!

8月6日からの川崎競輪は神奈川新聞社杯として開催されるF1戦。通常このシーズンはナイター開催が中心だが、この開催は日中に行われる。真夏の熱い戦いに期待したい。

S級戦は東日本のみのあっせんとなり、大きく北日本、関東、南関東の3地区で分かれます。地元南関ラインの中心にはS1の白戸淳太郎(神奈川74期)と桐山敬太郎(神奈川88期)。白戸は6月当地のF1で優出しており、ベテランの味がある走りに期待できる。桐山は本調子には遠いが地元戦で結果を求めるところ。この2人は予選から青野将大(神奈川117期)や川

越勇星(神奈川111期)、小林稜武(千葉113期)、齋木翔多(静岡115期)らの若い力と上手く連係できればチャンス十分。北日本ラインは層が厚い。積極先行の櫻井祐太郎(宮城117期)を筆頭に坂本周輝(青森100期)や、自在な阿部拓真(宮城107期)や石井洋輝(福島115期)らが揃う。唯一1班の須永優太(福島94期)はチャンスが広がりそうだ。関東勢の主軸となるのは末木浩二(山梨109期)の機動力で優勝候補の一人。機動型なら6月当地で好走した太田龍希(埼玉117期)にも注目したい。天田裕輝(群馬91期)や河野通孝(茨城

88期)は目標の頑張り次第か。

A級戦は中近勢からのあっせんもあり好勝負。地元の出澤拓也(神奈川111期)は今期初の地元戦で結果を出したいところ。田頭寛之(千葉109期)と共に優勝争いに参戦。北日本は自力基本の前川大輔(福島113期)と三浦雄大(宮城98期)が中心。関東は寺沼伊織(東京115期)、桑名僚也(埼玉119期)らの若手機動型の頑張り次第か。遠征勢は経験豊富な自力タイプ佐川翔吾(大阪94期)に前回当地Vの中武三四郎(大阪113期)らを擁し強力な布陣。

S級
主力選手



末木浩二 山梨 109期

大学時代に輝かしい成績を残してきた末木に、いよいよ本格覚醒の兆しがある。昨年5月に弥彦でS級初優勝を決め、10月には寛仁親王牌でG1初出場。その後も全日本選抜、日本選手権などに参戦して、勝ち星も挙げている。上位との戦いのなかで、高いレベルの走りに刺激を受けている様子もあるようだ。随所で周囲を沸かせる走りが見られるようになってきた。長い距離をしっかりと踏める脚力が魅力だが、ここ一番下げられない流れになれば好位をさばく器用さを見せる場面もある。全国を席巻した学生時代の素質を考えれば、まだまだこんなものではないはず。今後の更なる飛躍が楽しみな選手の一人だ。

S級
主力選手



青野将大 神奈川 117期

アマチュア時代は中長距離の種目で活躍してきた青野将大。デビュー後も順調に出世して昨年からはS級で活躍。F1戦ではコンスタントに決勝進出はしているが、6月松戸では記念初優出を果たすなど、徐々にキャリアを重ねてきている。S級ではラインを重んじる積極的な走りでしっかりと下地を作ってきた印象もある。もちろん地脚を生かすには先行基本の走りにはなるだろうが、流れに応じた柔軟性もあるのが青野の魅力。S級で一年半近く走ってきたが、「名刺配り」はそろそろ済んだはず。地元ホームバンクのF1戦、オールスター出場の主力組が参加しないこの開催でしっかりと結果を残して欲しいところ。

S級
主力選手



櫻井祐太郎 宮城 117期

S級に上がって約1年が経つ櫻井祐太郎だが、各地でインパクトある走りを続けている。積極的な仕掛けから強靭な地脚を発揮して、格上相手でも物怖じない強気な走りが魅力。バック本数も20本以上を維持しているのがほとんど。S級でそれだけ逃げ続けるには、脚力はもちろん強いメンタルも必要になってくる。そのなかで競走得点もじわじわ上げており、現在は105点前後。6月当地を走った際は準決勝で同期2人を相手に7着。土生敦弘(大阪117期)との逃げ争いを太田龍希(埼玉117期)にまくられた。しかし、自分のペースで駆ければ直線長いこのバンクも苦にしない強力な地脚を持っている。

A級
注目選手

出澤拓也
神奈川 111期

今期はA降級となった地元の出澤拓也。S級での壁は厚かったようだが、脚力もハンドルさばきもA級では上位。デビュー以来ほとんど先行をしてきていない異色の選手だが、再びS級に復帰してマーク屋としての大成を目指す。シビアな位置取りや自力選手の援護で失格する事も多い選手だが、それだけ自力選手を譲る気持ちや着にこだわる証拠である。ルール違反は褒められる事ではないが、走りに熱さを感じる若手マーク。今期既に失格は1度。S級復帰に向けてこのマイナスは大きく、今後の一戦一戦が勝負。地元戦できっちり結果を残したい。

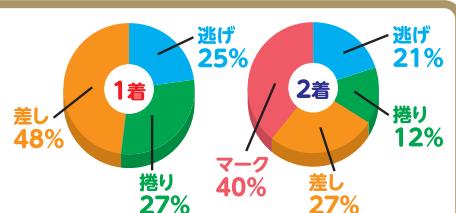
A級
注目選手

中武三四郎
大阪 113期

時折高い素質の片鱗を見せながらも、A級2班で停滞していた中武三四郎だが、徐々に本格化の兆しが見られる。6月にも当地川崎に登場しているが、予選、準決勝を力強い先行で勝ち上がる。決勝は上杉嘉樹(福井119期)の番手を回り優勝。絶好のチャンスをモノにした。まだ成績にムラはあるが、これが今年2度目の優勝となつた。しっかりと長い距離を踏める地脚は魅力十分。叔父はS級でも活躍していた中武克雄(大阪57期)でまだまだ高い素質、可能性を感じさせる。ゲンの良いこのバンクで弾みを付けていきたいところ。

川崎競輪場バンクガイド

直線が長く、最終4コーナーから直線にかけてイエローライン付近が強襲コースで外を踏める選手が穴を演出する。



俺にまかせろ!

開催中
毎日
OA!



NICO NICO LIVE



競輪は適度に楽しみましょう。車券の購入は20歳になってから。

【発行】川崎競輪 【監修】川崎サイクル

主力五角で優勝争いは接戦